



滋賀県立大学

THE UNIVERSITY OF SHIGA PREFECTURE

2022

滋賀県立大学

産学連携センターの歩み

公立大学法人
滋賀県立大学

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500

Tel. 0749-28-8200 <https://www.usp.ac.jp/>

産学連携センター

Tel. 0749-28-8604 / 8610

Fax. 0749-28-8620

URL. <https://www.usp.ac.jp/chii kisangaku/center/>

© 公立大学法人滋賀県立大学 2022



「滋賀県立大学産学連携センターの歩み2022」の 発刊にあたって

滋賀県立大学
理事・副学長
産学連携センター長

安原 治

大学には教育、研究に加えて、第3の役割として地域への貢献が求められています。とくに、近年、産業構造の変化や社会のグローバル化を背景に、新たな社会的価値の創造、すなわちイノベーション創出への貢献が大学に求められるようになりました。産業構造審議会は、「未来ニーズから新たな価値を創造するイノベーションの創出に取り組むことが必要。このために、産学官の総力を結集して迅速に取り組む必要がある」としています。

本学では、大学の基本姿勢として、「地域人材の育成や地域課題の解決に向けた取組、産学官連携などを強化し、地域貢献のリーディングモデルとなることを目指す」こととし、産学協同の研究推進を大学活動の柱の一つに挙げています。この産学官連携の拠点施設として、平成11年に「産学共同研究センター」が発足しました。平成25年から、現在の「産学連携センター」となっています。発足以来、本センターは、研究推進室、地域ひと・モノ・未来情報研究センターなどとの協力のもと、大学の知的資源と企業ニーズのコーディネーターの役割を務めてまいりました。共同研究を通じて産業界との交流を進め、研究シーズを提供し、企業の研究開発を支援するとともに、本学の教育研究活動の推進にも寄与しています。このように、大学の知的・物的資源を活用することにより、地域社会や企業における先端的技術の開発、新規事業の創出に貢献することを目指しています。

発足以来20年以上が経過した現在、これまでの歩みを振り返り、新たな地平に向かって飛躍するために、「産学連携センターの歩み2022」を発刊することとしました。本報告書では、特に最近の5年間の活動についてまとめています。

ご高覧いただき、なお一層のご指導・ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

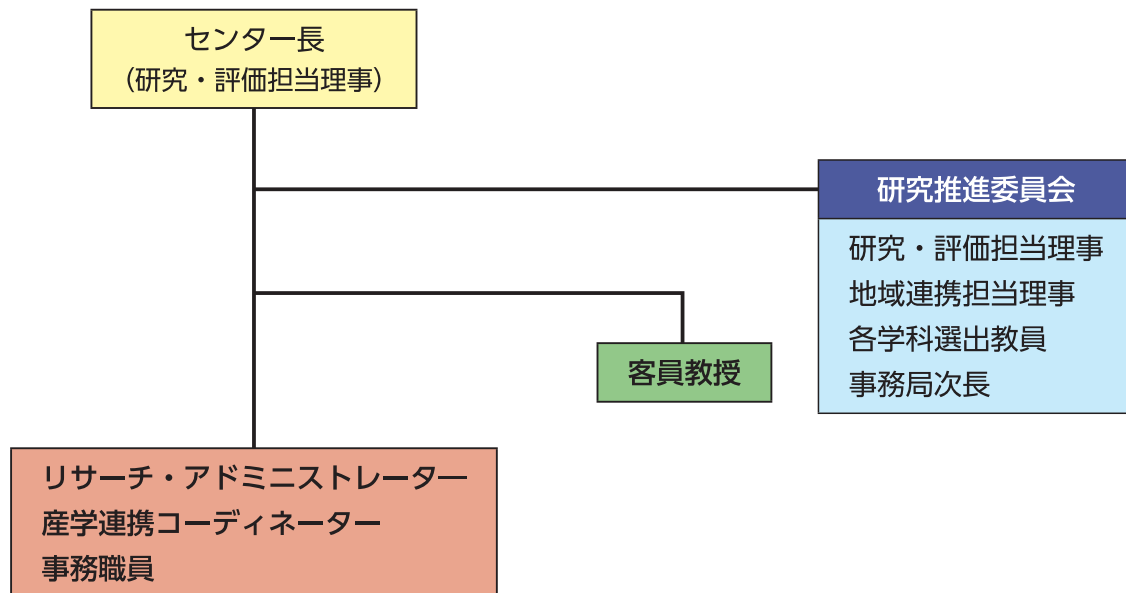
2022年7月

目次

1. 産学連携センターの概要	頁
(1) 組織	1
(2) 目的	1
(3) 沿革	1
2. 産学連携活動の推進	
(1) 研究シーズ発表会	2
(2) 研究シーズ集の発行	3
(3) 滋賀テックプラングランプリ	5
(4) 研究交流会	6
(5) 展示会への参加（出展）	7
(6) 知的財産に関する活動（知財セミナー、特許相談等）	10
(7) その他の活動（企業訪問、来訪、広報等）	11
3. 産学連携交流制度の概要	
(1) 共同研究	12
(2) 受託研究	12
(3) 学術指導	13
(4) 奨励寄附金	13
(5) レンタルラボ	14
4. 産学連携等の実績および実施状況	
(1) 共同研究受入実績（業種別）	15
(2) 受託研究受入・学術指導実施実績（業種別）	16
(3) 奨励寄附金受入状況	17
(4) レンタルラボ実施状況	17
(5) 特許出願状況	17
5. 関係規則	18
6. 構成メンバー	18

1. 産学連携センターの概要

(1) 組織



(2) 目的

滋賀県立大学産学連携センターは、産官学連携の拠点施設として、大学と産業界等との交流により、企業の研究開発を支援するとともに、本学の教育研究活動の推進に寄与することを目的に設置されました。

大学の知的資源と企業ニーズのコーディネーターとして、企業との共同研究を中心に、シーズの提供などを行い、実践指導から情報提供までの幅広い分野において、大学の知的・物的資源を活用することにより、企業の先端的技術開発、新規事業創出に貢献することを目指しています。

(3) 沿革

- 平成 7年 4月 滋賀県立大学開学
- 平成11年 6月 「産学共同研究センター」 開所
- 平成15年 「地域産学連携センター」 に改称
- 平成22年 5月 産学連携推コーディネーターを配置
- 平成24年度末 産学連携推進計画（第2期中期計画に対応）を策定
- 平成25年 4月 社会貢献活動の充実・強化を図るため、地域連携部門の「地域共生センター」と産学連携部門の「産学連携センター」に再編
- 平成30年度末 産学官連携推進計画（第3期中期計画に対応）を策定

2. 産学連携活動の推進

(1) 研究シーズ発表会

本学教員が保有するシーズを発表し、企業・関係団体との交流を図ることにより共同研究・連携をさらに発展させることを目的として、毎年度研究シーズ発表会を開催しています。2021年度については、(4)で記載する研究交流会と合同で開催しました。過去5年間の研究シーズ発表会の内容は下記のとおりです。

滋賀県立大学 研究シーズ発表会

	テーマ	分野	発表タイトル	発表者	職位(当時)	学科
令和3年度	地域に根差した環境建築の最前線	1 環境建築	竹と共に生きる社会を目指して	陶器 浩一	教授	環境建築デザイン学科
		2 環境建築	地域資源を用いた建築改修	川井 操	准教授	環境建築デザイン学科
		3 環境建築	地球環境と建築デザイン	芦澤 竜一	教授	環境建築デザイン学科
令和2年度	滋賀県立大学「情報応用サロン」	1 ネットワーク情報工学	スマート社会を支える信号処理応用技術	宮城 茂幸	准教授	電子システム工学科
		2 電子回路	非接触生体センシングとその応用	井上 敏之	講師	電子システム工学科
		3 有機環境材料	多環式芳香族分子の合成と光・電子材料への展開	北村 千寿	教授	材料科学科
		4 メカトロニクス研究	ゲルを使った柔らかいロボット	山野 光裕	准教授	機械システム工学科
		5 知識情報工学	テキストデータ分析による意思決定	砂山 渡	教授	電子システム工学科
令和元年度	滋賀県立大学「エネルギー環境サロン」	1 エネルギー環境材料	光エネルギーの高効率利用を目指した金属ナノ構造の開発とフラーレン重合体の創製	秋山 毅	准教授	材料科学科
		2 エネルギーと動力分野	エンジン排気からの物理的および化学的手法によるCO2分離回収	河崎 澄	准教授	機械システム工学科
		3 流体工学	マイクロバブルによる水質浄化と植物栽培への適用	南川 久人	教授	機械システム工学科
		4 パワーエレクトロニクス	体内リンコントロールによる健康寿命の延伸	坂本 眞一	准教授	電子システム工学科
平成30年度	滋賀県立大学「機能創生サロン」	1 有機複合材料	高分子材料の新しい機能創生技術	徳満 勝久 竹下 宏樹	教授 准教授	材料科学科 材料科学科
		2 機械ダイナミクス	ブレーキパッドの剛性と鳴き騒音	大浦 靖典	准教授	機械システム工学科
		3 精密生産システム	仮想環境を用いた技能の解析と訓練システム	橋本 宣慶	准教授	機械システム工学科
		4 センシング工学	電磁気現象を利用した非破壊検査における高感度化と傷形状の定量的評価	福岡 克弘	准教授	電子システム工学科
平成29年度	滋賀県立大学「物質創生サロン」	1 金属材料	固体蛍光材料への応用に向けた、溶液プロセスによる蛍光ナノ粒子の複合化および構造設計	鈴木 一正	助教	材料科学科
		2 セラミックス材料	ガラスの脆さ（もろさ）の評価技術	吉田 智	准教授	材料科学科
		3 高分子機能設計	精密ラジカル重合を用いた刺激応答性ゲル材料の設計	伊田 翔平	助教	材料科学科
		4 材料力学	Sonic-IR法による欠陥の非破壊検出	田邊 裕貴	教授	機械システム工学科
		5 デバイス工学	酸素プラズマプロセスによる低温での物質表面酸化の試み：特に光触媒効果を持つ酸化チタン形成への応用に向けて'	柳澤 淳一	教授	電子システム工学科

*平成29年度から令和元年度までは、工学部Techサロンと連携して実施しました。

(2) 研究シーズ集の発行

本学教員の研究活動やその成果を地域や産業界の皆様にご覧いただき、イノベーションの創出や地域社会の発展に貢献できるよう研究シーズ集を発刊しています。研究シーズ集は2年に1度更新し、更新を行わない年は前年度に掲載できなかったシーズや新任教員のシーズを掲載する増補版を発刊しています。なお、「研究シーズ集2020」および「研究シーズ集2021」については大学HPにも掲載しています。



※「研究シーズ集2020」を2020年10月に発刊し、増補版の「研究シーズ集2021」を2021年7月に発刊しました。



※過去に刊行した2005年から2019年の「研究シーズ集」表紙写真です。
原本は滋賀県立大学図書館と産学連携センターで保管しています。

各教員・研究者のシーズをSDGsの目標にマッピングしました。

(研究シーズ集2020, 2021より)

学部	環境科学部				工学部			人間文化学部					人間看護学部	その他*
学科	生態	政策	建築	資源	材料	機械	電子	地域	デザイン	栄養	関係	国際	看護	
貧困をなくそう			●	●										
飢餓をゼロに				●						●●				
すべての人に健康と福祉を	●		●●	●●●● ●	●●	●●●● ●	●●●●		●●●●	●●●● ●●●● ●●●● ●	●●●●	●●	●●●●●● ●●●●●● ●●●●●● ●●●●●● ●●●●	
質の高い教育をみんなに			●			●●●●	●	●	●	●	●●●●	●● ●●	●●●●●● ●	●●
ジェンダー平等を実現しよう						●		●●			●	●		●●
安全な水とトイレを世界中に	●	●				●								
エネルギーをみんなにそしてクリーンに	●	●	●		●●●● ●●●● ●●●● ●	●●●●	●●●● ●●		●●				●	●
働きがいも経済成長も		●	●			●	●	●			●●			
産業と技術革新の基盤をつくろう		●	●●●●	●●	●●●● ●●●● ●●●● ●●●● ●●	●●●● ●●●● ●●●● ●	●●●● ●●●● ●●●● ●●●● ●●	●	●●●● ●●	●●			●●●●	
人や国の不平等をなくそう						●		●●			●●●●	●	●	●●
住み続けられるまちづくりを	●●●●	●●●●	●●●● ●●●●	●	●	●	●	●●●●	●●●●		●●		●●●●	●●
つくる責任つかう責任		●		●●●●	●●●● ●	●●	●	●	●●●●				●●	
気候変動に具体的な対策を		●	●	●●●● ●	●	●								
海の豊かさを守ろう	●●●●	●		●●	●●		●							
陸の豊かさを守ろう	●●	●●●●	●●	●●●● ●●●● ●			●●		●					
平和と公正をすべての人に								●						●
パートナーシップで目標を達成しよう		●						●	●●●●		●		●	

*その他：全学共通教育推進機構、地域共生センター、地域ひと・モノ・未来情報研究センター、ガラス工学研究センター

●は一人の教員（研究者）を示す。教員には、該当するSDGsの中から1個または複数の目標を選択してもらった。

(3) 滋賀テックプラングランプリ

「滋賀テックプラングランプリ」は、科学技術や情熱を持って滋賀県から世界を変えようとするチームを発掘・育成することを目的として開催されています。産学連携センターでは、本学からエントリーするチームに対し、エントリーシートやプレゼンテーション資料の作成支援などの伴走支援を行っています。

2021年の滋賀テックプランターには工学部から2チームがエントリーしました。両チームともテックプラングランプリ最終選考会に選出され、「ひかる炭素・健康革命」チームが最優秀賞／東レ賞を受賞しました。

※過去5年間の最終選考会に選出されたチームは下記のとおりです。

滋賀テックプラングランプリ最終選考会

	エントリーチーム名	発表タイトル	受賞	代表	職位(当時)	学科
第6回	1 ひかる炭素・健康革命	だれでもつくれるカーボンドットでバイオマーカー検出	最優秀賞／東レ賞	森田 秀	院生・M2	材料科学専攻
	2 PROJECT Air Assist	体位変換をアシストする空気圧式シート状ソフトロボットの開発		西岡 靖貴	講師	機械システム工学科
第5回	1 The 養殖革命	魚食文化復活の鍵を握る「骨なし魚」の養殖	関西みらい銀行賞	杉浦 省三	教授	生物資源管理学科
	2 未来看護工房	視覚障害者を対象とした感覚提示型の手技療法教育システム	パナソニック・アプライアンス賞	関 恵子	講師	人間看護学科
第4回	1 身体・服飾デザイン研究所	3次元形状モデルおよび身体部位の変動量に基づく革新的衣類の開発		森下あおい	教授	生活デザイン学科
	2 Phosphaness	体内リンコントロールによる健康寿命の延伸	東レ賞	辰巳佐和子	教授	生活栄養学科
第3回	1 Earth Purifier	新可視光応答型光触媒による地球の浄化	リバネス賞	松宮 祐介	院生・M1	材料科学専攻
	2 里湖循環プロジェクト	未利用バイオマス資源を活用した野菜栽培あるいは微細藻類培養による循環型社会の構築	ヤンマー賞	伴 修平	教授	環境科学部
第2回	1 フラーレンポリマー・デベロップメント	フラーレンポリマーで加速する、有機EL・有機太陽電池が「どこにでもある」未来		秋山 毅	准教授	材料科学科
	2 Kids Loco Project	早期移動体験によって障がい児の心・認知・身体を育む移動支援機器の普及と開発	東レ賞	安田 寿彦	教授	機械システム工学科

開催機関：滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアム
滋賀県 商工観光労働部 モノづくり振興課
株式会社リバネス 地域開発事業部

(4) 研究交流会

本学教員と地域や産業界、関係団体等の皆様との交流を図る研究交流会を令和3年10月にオンラインで開催しました。午前に研究シーズ発表会（前項(1)参照）、午後在大学が助成して支援する教育研究高度化促進費成果報告会を実施しました。

当日は、ウェブ会議システムによるブレイクアウトルームを複数設置しました。多数の訪問者があり、参加者同士の交流や意見交換が活発に行われました。

研究シーズ発表会

『地域に根差した環境建築の最前線』

10:10～（1人あたり発表20分、質疑応答10分）

環境科学部環境建築デザイン学科・教授・陶器 浩一	竹と共に生きる社会を目指して
環境科学部環境建築デザイン学科・准教授・川井 操	地域資源を用いた建築改修
環境科学部環境建築デザイン学科・教授・芦澤 竜一	地球環境と建築デザイン

教育研究高度化促進費 成果報告会①

13:10～（1人あたり発表10分、質疑応答5分）

環境科学部環境建築デザイン学科・教授・芦澤 竜一	流木を構造体とした建築生成手法の基礎研究
環境科学部環境建築デザイン学科・講師・永井 拓生	滋賀県産ヨシを用いた強度・寸法安定性に優れる構造用ストランドボードの開発
環境科学部環境生態学科・講師・工藤 慎治	生分解性プラスチック素材を分解する水中微生物を琵琶湖深層部まで探せ！
環境科学部生物資源管理学科・教授・原田 英美子	石灰岩地植生の保全と有効利用に関する研究
環境科学部生物資源管理学科・講師・畑 直樹	底面給水を利用した簡易砂栽培に関する研究
工学部電子システム工学科・講師・榎本 洸一郎	空撮画像を用いた画像処理による水面のノイズ除去技術の開発 ※動画配信

教育研究高度化促進費 成果報告会②

14:50～（1人あたり発表10分、質疑応答5分）

環境科学部環境生態学科・教授・小泉 尚嗣	琵琶湖湖底深部湧水と湖底地下構造との関係解明および同湧水が環境に与える影響の把握
工学部材料科学科・教授・バラチャンドラン ジャヤデワン	組成・形態制御されたPt-Pd被覆Ni-Pt-Pdナノ粒子合成および触媒活性評価
工学部材料科学科・講師・鈴木 厚志	遷移金属・希土類元素導入による高性能・安定性を備えたペロブスカイト太陽電池の開発
人間文化学部生活栄養学科・准教授・佐野 光枝	胎仔期のDNAメチル化修飾へ与える子宮内胎児発育不全症の影響の網羅的解析
人間文化学部人間関係学科・講師・後藤 崇志	「絵を描く」ことに注目した学習教材「あとび」の開発
工学部材料科学科・准教授・秋山 毅	実用材料への展開を目指したフラーレン重合体の開発 ※動画配信

教育研究高度化促進費 成果報告会③

16:30～（1人あたり発表10分、質疑応答5分）

環境科学部生物資源管理学科・教授・入江 俊一	琵琶湖周辺に生息する草本植物の発酵処理を目指した新規きのこ株の開発
環境科学部生物資源管理学科・教授・大久保 卓也	貧栄養化が進行する琵琶湖における生態系変化と漁業への影響把握

(5) 展示会への参加（出展）

産学連携センターでは、本学教員が保有する技術や研究シーズを企業や関連団体に紹介するため、様々な展示会に出展しています。

過去5年間に開催した展示会名および内容は下記のとおりです。

琵琶湖環境ビジネスメッセ

年 度	教員名	学 部	発表タイトル
2017年度	山野准教授	工学部	形状記憶ゲルの軟化・硬化により超変形する生活支援スマート柔軟ロボットハンドの研究
	原田准教授	環境科学部	沈水植物オオカナダモ（ <i>Egria densa</i> ）の金属元素収集に関する研究
2018年度	安田教授	産学連携センター	プロジェクト概要と太陽光発電分野への応用
	村上教授	環境科学部	家庭での節電行動の意思決定および節電効果に影響を与える要因解明の実証研究
	鈴木助手	工学部	シャトルコック型フタロシアニン金属錯体を用いた太陽電池の作製と評価
2019年度	原田准教授	環境科学部	水生植物も活かせば資源
	白井教授	環境科学部	デジタルデザイン手法を用いた空き家再生の実践的研究
	西岡講師	工学部	腰部ヘルスケア支援を目的としたソフトアクチュエーター搭載型知的コルセットの開発

イノベーションエコシステムイン滋賀

年 度	教員名	学 部	発表タイトル
2021年度	中川講師	環境科学部	キノコ廃菌床・特定外来生物の飼料化等
	田邊教授／ 和泉准教授	工学部	レーザ熱処理を活用したエコで高能率・高品質の新しいモノづくり赤外線カメラを用いた各種非破壊検査技術～検査の低コスト化・高効率化を目指して～
	柳澤教授／ 一宮准教授	工学部	微細加工技術を応用した機能性素子、生体応用等
	宮本教授	人間文化学部	省エネルギー意識、美意識に対応した住宅照明

京都ビジネス交流フェア

年 度	教員名	学 部	発表タイトル
2018年度	伊田助教	工学部	材料科学科の高分子機能設計分野の紹介
2019年度	南川教授	工学部	マイクロバブルの技術の紹介
2021年度	橋本准教授	工学部	バーチャルリアリティを利用した教育訓練システム

しがちゅうしんビジネスマッチングフェア商売繁盛創設所

年 度	教員名	学 部	発表タイトル
2017年度	酒井教授	工学部	設置予定の地域・ひと・モノ・未来情報研究センターの紹介
2018年度	宮城准教授	工学部	高齢者の嚥下機能回復リハビリテーション効果頸部聴診音の比較調査
	-----	-----	本学のSGDs宣言のパネル
2019年度	遠藤准教授	人間文化学部	食品成分の新機能：ストレスタンパク質発現抑制によるがんの予後改善効果の検討
	東田准教授	人間文化学部	鉄欠乏性貧血と筋機能の関連の解明

名古屋CLOUD DAYS

年 度	教員名	学 部	発表タイトル
2017年度	酒井教授	工学部	設置予定の地域・ひと・モノ・未来情報研究センターの紹介

イノベーションジャパン

年 度	教員名	学 部	発表タイトル
2019年度	酒井教授	工学部	スマート農業・看護・観光・ファクトリーによる地域課題解決
	酒井教授	工学部	地域・ひと・モノ・未来情報研究センターの紹介

アグリビジネス創出フェア

年 度	教員名	学 部	発表タイトル
2019年度	南川教授	工学部	ハウレンソウ水耕栽培時のマイクロバブルの効果
	酒井教授	工学部	ICTを利用したスマート農業の構築
	野間准教授	環境科学部	焼畑で作るカブの特性、焼畑後の植生回復とその利用
2020年度	杉浦教授	環境科学部	養殖革命
	谷本准教授	工学部	キトサン粒子の農業への応用

メディカルジャパン

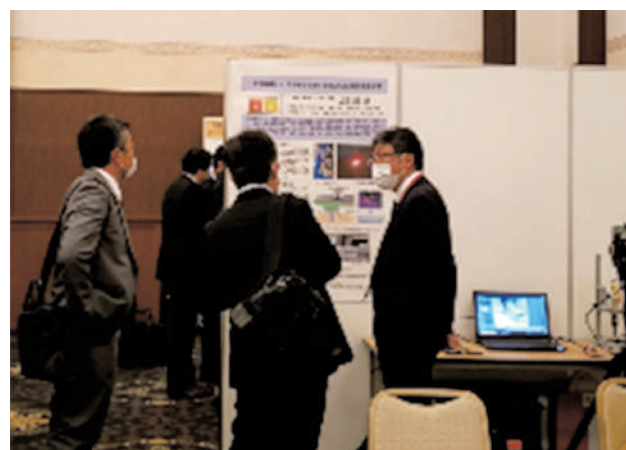
年 度	教員名	学 部	発表タイトル
2019年度	小澤准教授	人間文化学部	嚥下機能評価システムの構築に向けての取り組み
	宮城准教授	工学部	嚥下機能評価システムの構築に向けての取り組み
2021年度	大脇准教授	人間看護学部	AIによる産後うつ予防対話型サポートシステムの開発
	安田教授	工学部	BABY LOCOの展示(株式会社イマセン技術研究所ブース内)
	宮城准教授	工学部	非侵襲型簡易嚥下機能評価システム実現の可能性を探る

グリーンイノベーション

年 度	教員名	学 部	発表タイトル
2017年度	安田教授	産学連携センター	滋賀地域サテライトクラスターについて
	徳満教授	工学部	水素ガスバリア性を有する新規PVOH系複合材料に関する基礎研究
2018年度	徳満教授	工学部	水素ガスバリア性を有する新規PVOH系複合材料に関する研究
2021年度	宮村准教授	工学部	再生可能エネルギーシステムと水素吸蔵合金

ラボツアー

年 度	教員名	学 部	発表タイトル
2017年度	乾教授	工学部	リチウムイオン二次電池と燃料電池の解析など
	松岡教授	工学部	ガラスの融液物性・熱物性と破壊現象の研究など
	河崎准教授	工学部	バイオディーゼル燃料およびその高効率化利用など



会場での説明風景



企業との面談



展示用ブース

(6) 知的財産に関する活動（知財セミナー、特許相談等）

<知的財産セミナー>

特許制度に関する基礎的な知識や制度改正などの最新情報を本学の教職員に提供する機会として、令和元年度に知的財産セミナーを開催しました。

日 時：令和元年12月25日(水) 10：40～12：00

場 所：産学連携センター2階 研究交流室

講演内容：特許制度基礎知識の確認と最新知財情報

講 師：独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPIT）

滋賀県知財総合支援窓口 知的財産ナビゲーター 吉井映滋 氏

<知的財産権相談会>

知的財産権に関する支援策として、地域産学連携センター客員教授（弁理士）による個別相談会を毎年実施しています。

相談件数の推移

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
相談件数	13件	7件	4件	5件	4件

(7) その他の活動（企業訪問、来訪、広報等）

<技術相談・企業訪問・来訪>

過去5年間の技術相談件数および訪問・来訪件数は下記の通りです。

	2021年		2020年		2019年	
	技術相談	訪問／来訪	技術相談	訪問／来訪	技術相談	訪問／来訪
県外企業	26	7	10	3	13	5
県内企業	12	7	11	4	10	3
金融機関	0	1	0	1	0	4
公的機関	1	2	1	2	5	2
合 計	39	17	22	10	28	14

	2018年		2017年	
	技術相談	訪問／来訪	技術相談	訪問／来訪
県外企業	17	5	12	5
県内企業	15	18	19	15
金融機関	1	0	0	2
公的機関	0	4	0	1
合 計	33	27	31	23

<研究費公募情報の提供>

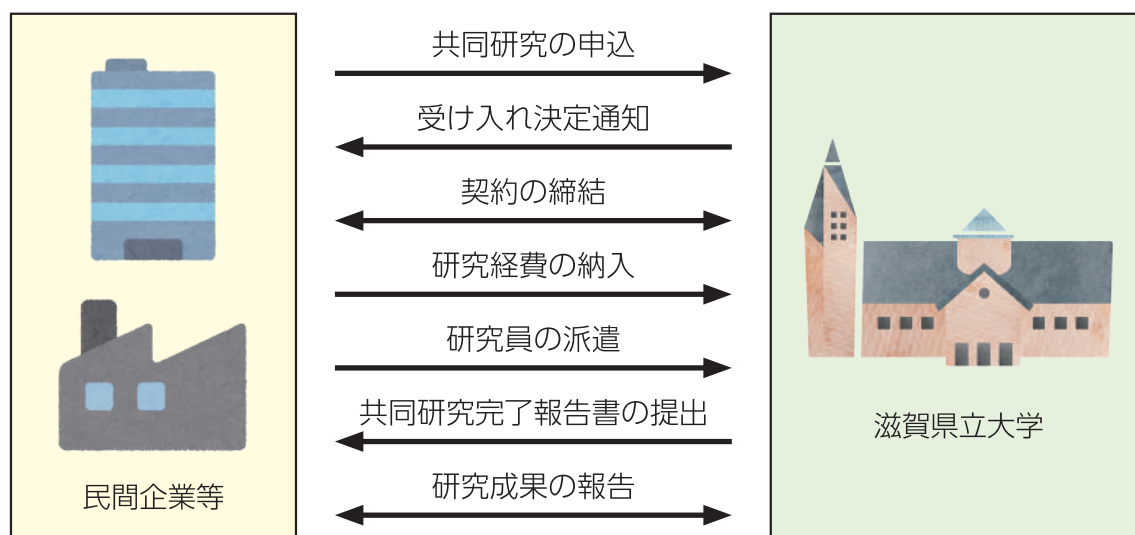
研究費の公募情報をHP掲示板（研究支援ポータル）に掲載した件数を示します。

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
160	179	222	288	244	210

3. 産学連携交流制度の概要

(1) 共同研究

共同研究は、民間企業等と本学の教員が、共通の課題についてそれぞれの役割分担を決めて共同で研究を実施するものです。

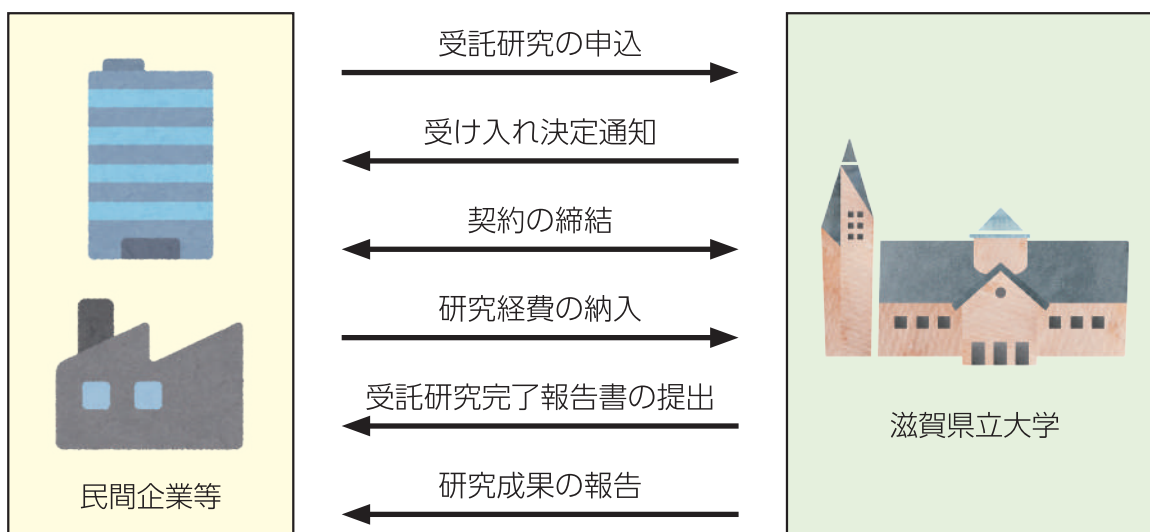


共同研究の実施には下記の経費負担が必要です。

直接経費	研究経費として共同研究の実施に必要なとなる設備費、消耗品費および旅費等の直接的な経費
管理的経費	共同研究の実施に関連し、直接経費以外に必要なとなる光熱水費、事務経費等の経費 (直接経費の15パーセントに相当する額が原則)

(2) 受託研究

受託研究は、民間企業等からの委託を受け、本学の教員が研究・調査を行い、その成果を委託者に報告するものです。

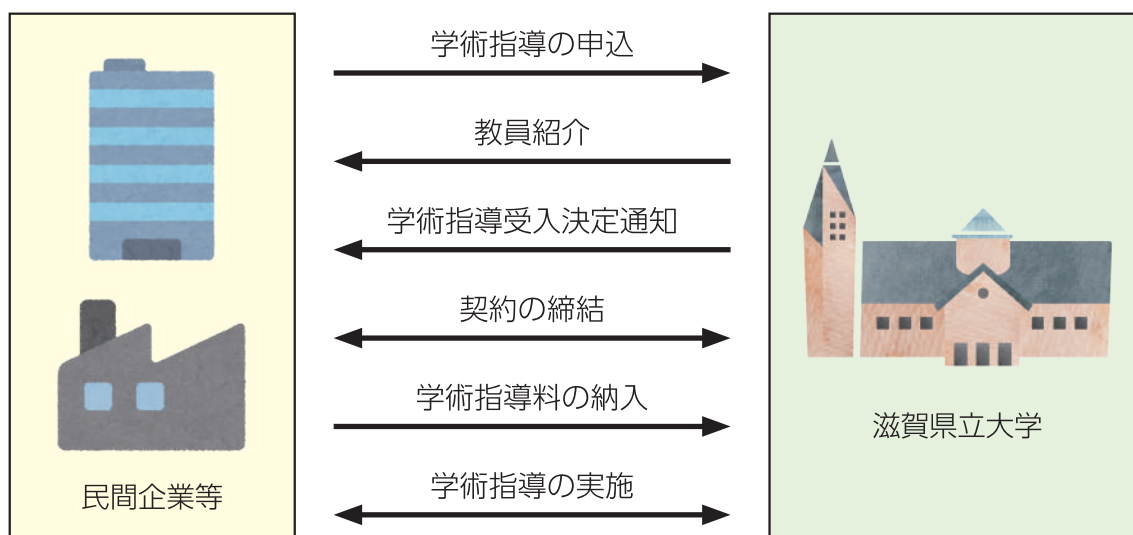


受託研究の実施には下記の経費負担が必要です。

直接経費	研究経費として受託研究の実施に必要なとなる設備費、消耗品費および旅費等の直接的な経費
管理的経費	受託研究の実施に関連し、直接経費以外に必要なとなる光熱水費、事務経費等の経費 (直接経費の15パーセントに相当する額が原則)

(3) 学術指導

学術指導は、民間企業等から指導料を受け入れ、本学の教員が特定の課題について、専門的知識に基づき指導助言を行い、業務や活動を支援するものです。



学術指導の実施には下記の経費の負担が必要です。

指導料	学術指導担当者の知識、ノウハウ等の提供の対価としての指導料
管理的経費	学術指導の実施に関連し指導料以外に必要なとなる光熱水費、事務経費等の経費 (指導料の10パーセントに相当する額が原則)

(4) 奨励寄附金

教育・研究の奨励を目的として、学外の機関、団体または個人の方から、研究者を指定のうえ寄附を依頼し、研究費として活用させていただいています。

なお、寄附いただいた奨励寄附金のうち、10%は本学の管理的費用とさせていただきます。


(5) レンタルラボ

主に本学教員との共同研究を実施するための施設として研究実験室があり、企業等に有料で貸付けを行っています。

●物理系研究実験室

	重量物の搬出入口有り 作業台／保管庫無料貸出有り 防振床構造採用 給水口2カ所，排水口2カ所有り 電力負荷最大値 3P200V200A, 2P200V200A, 2P100V150A 通信・電気・ガス・水道個別管理
	搬入間口 2.2×2.49(H)m 有効部屋 4.5×7.15×3.0(H)m 防振床面積 3.5×5.7m 耐荷重 20000N/㎡ 使用料金 98,280円/月

●化学系研究実験室

	情報サイド実験台常設 ドラフトチャンバー常設 薬品棚2ケース常設 大容量電力多ケーブル接続可能 電力負荷最大値 3P200V100A, 2P200V60A, 2P100V150A 通信・電気・ガス・水道個別管理
	搬入間口 1.07×1.95(H)m 有効部屋 5.25×7.15×3.0(H)m 中央実験台 1.5×2.4×0.8m 使用料金 98,280円/月

※「地域共生センター」内の研究室（2室）もレンタルラボとして貸付けを行っている。

- ・実験室2：床面積49㎡ 使用料金114,660円/月
- ・実験室3：床面積57㎡ 使用料金133,380円/月

4. 産学連携等の実績および実施状況

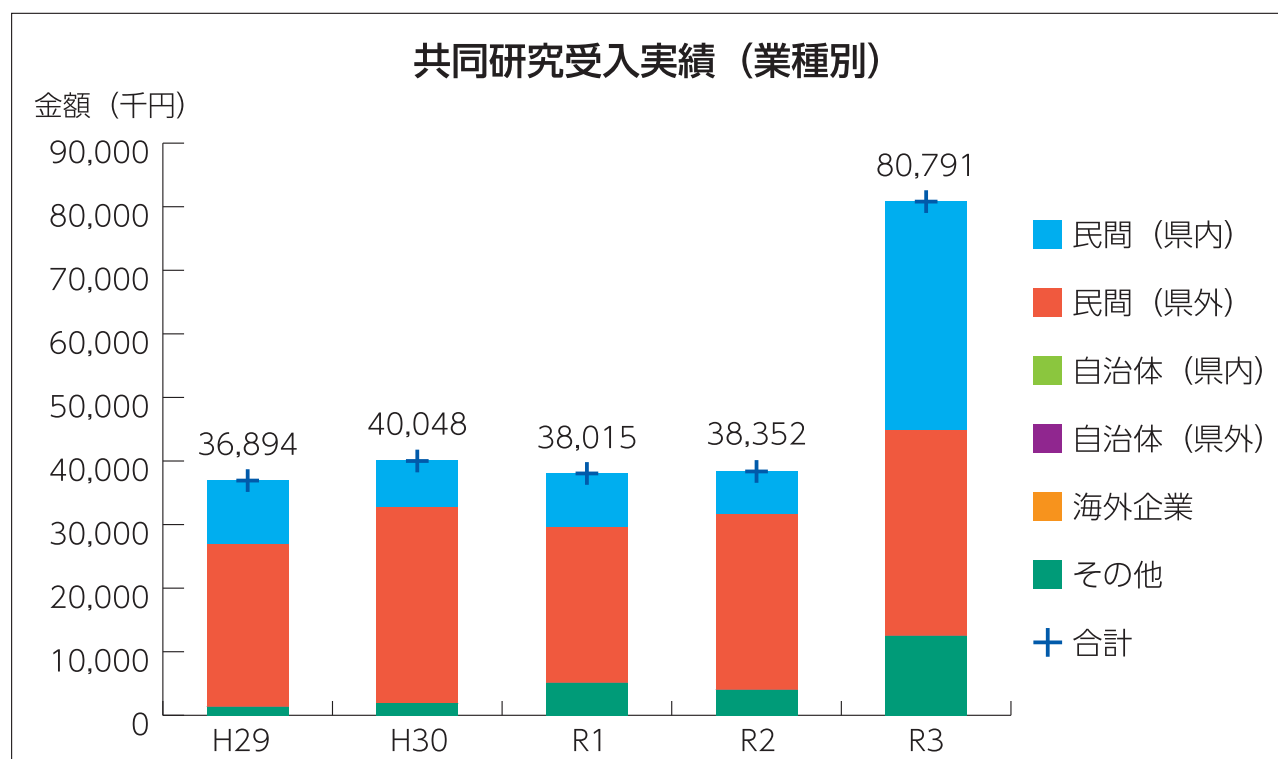
(1) 共同研究受入実績（業種別）

下の表とグラフは、共同研究の受入実績の年次推移を示しています。件数、金額ともに令和3年度に増加しています。

金額 千円

	H29		H30		R1		R2		R3	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
民間(県内)	10	9,970	9	7,276	10	8,423	13	6,815	17	35,933
民間(県外)	31	25,616	29	30,872	23	24,472	25	27,540	27	32,365
自治体(県内)	2	0	3	0	4	0	6	0	3	0
自治体(県外)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	5	1,308	8	1,900	9	5,120	8	3,997	8	12,493
海外企業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	48	36,894	49	40,048	46	38,015	52	38,352	55	80,791

※その他 … 大学、公益社団法人、NPO法人等



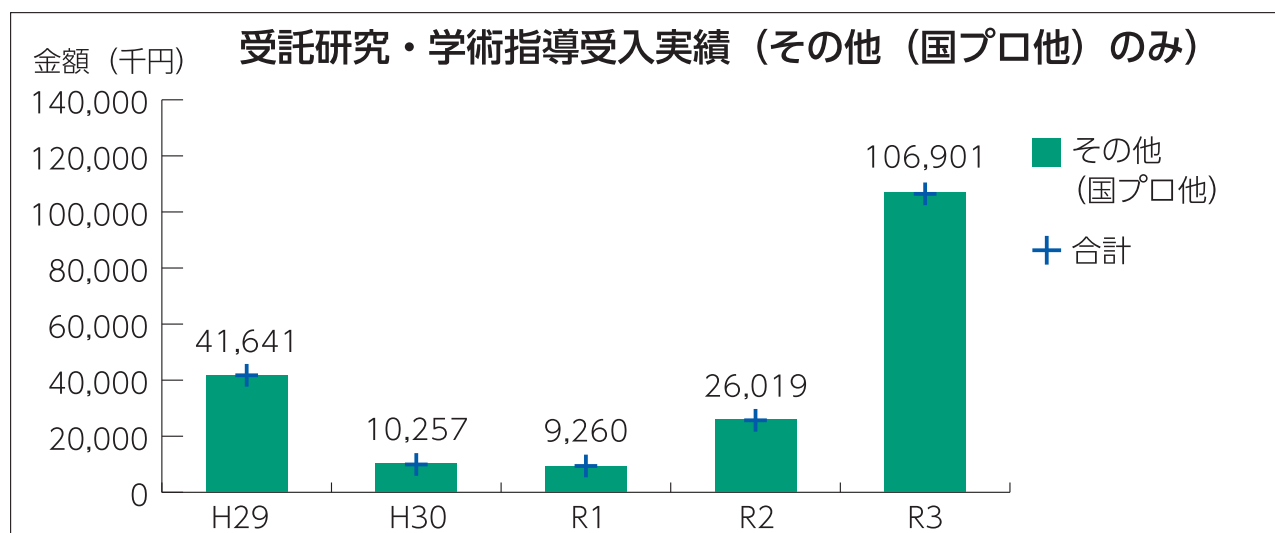
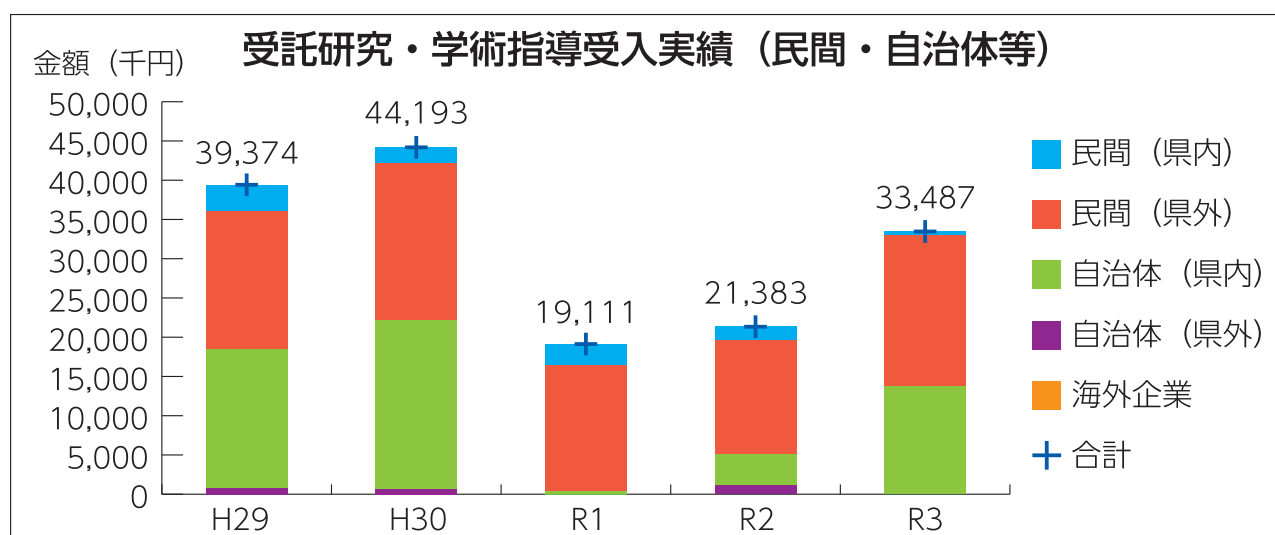
(2) 受託研究受入・学術指導実施実績（業種別）

受託研究受入と学術指導実績の合計件数と合計金額の年次推移を示します。令和元年度に始まった新型コロナウイルス感染症流行の影響もあり、令和元年度と2年度には主に県内自治体からの受け入れが減少しましたが、令和3年度は回復傾向にあります。

金額 千円

	H29		H30		R1		R2		R3	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
民間(県内)	3	3,300	5	2,079	4	2,676	4	1,788	3	527
民間(県外)	13	17,670	19	20,025	17	16,035	15	14,550	18	19,270
自治体(県内)	9	17,594	6	21,447	1	400	3	3,920	9	13,690
自治体(県外)	1	810	1	642	0	0	1	1,125	0	0
その他(国プロ他)	6	41,641	5	10,257	7	9,260	11	26,019	8	106,901
海外企業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	32	81,015	36	54,450	29	28,371	34	47,402	38	140,388

※その他 … 国、JST、一般社団法人、NPO法人等



* 国プロ：国の競争的資金を獲得して行う国家プロジェクト

(3) 奨励寄附金受入状況

金額 千円

H29		H30		R1		R2		R3	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
30	23,995	36	29,224	41	36,567	27	22,218	28	24,891

(4) レンタルラボ実施状況

<入居状況>

実験室	開始	終了	共同研究相手先
産学連携センター			
研究実験室 2 (物理系)	平成28年 4月	平成29年 9月	日本電気硝子(株)
	平成30年 4月	令和 5年 3月	ダイハツディーゼル(株)
研究実験室 4 (化学系)	平成26年 4月	令和 2年 3月	ティーエーケミカル(株)
研究実験室 5 (化学系)	平成26年 1月	平成30年 6月	日本電気硝子(株)
	令和 3年 5月	令和 5年 3月	(株)Air Business Club
共生センター			
実験室 2	平成29年 1月	令和 3年 6月	(株)ユカシカド
実験室 3	平成28年 7月	平成30年 3月	ダイハツディーゼル(株)

(5) 特許出願状況

本学教員から承継した発明の出願数等は下記のとおりです。

	発明届出件数	承継件数	出願件数	審査請求件数	特許登録件数
2017年	10件	8件	8件	4件	8件
2018年	6件	5件	4件	9件	5件
2019年	9件	9件	6件	3件	2件
2020年	8件	7件	7件	3件	2件
2021年	12件	12件	13件	2件	2件

5. 関係規則

- ・産学連携センター管理運営規程
- ・産学連携センター施設等使用要綱
- ・共同研究取扱規程
- ・受託研究取扱規程
- ・学術指導取扱規程
- ・寄附金取扱細則

6. 構成メンバー

●産学連携センター

センター長	安原 治
リサーチアドミニストレーター	西口 晃
産学連携コーディネーター	小松 裕
職員	中野 民子

●地域ひと・モノ・未来情報研究センター

センター長	酒井 道
産学連携コーディネーター	筒井 宏彰
職員	長尾さゆり

●事務局（地域連携・研究支援課）

課長	山中智栄子
職員	森久友紀子
	川原 宗
	數田 麻紀
	橋本 惇
	池田美代子
